

第2

京都府の生涯学習の 基本的考え方

1 ともに学ぶ心豊かな社会をつくる

ともに学習し、楽しみ、生きがいを感じ、生きる力を得ることを通して、心豊かな自己の実現といきいきとした社会を目指します。

生涯学習は、私たちが自分で物事を考え、自分で答えを出す人間になるための学習であり、心豊かな人間の形成につながっていくものです。生活を楽しみ、生きがいを感じ、息長く、強制されることなく学習できなくてはなりません。

私たち一人ひとりの身近な学習の積み重ねが、地域の様々な学習活動へと広がり、より多くの人たちと出会い、新しい知識・活動への喜びや感動を呼び起こし、心豊かな府民が一人でも多くなることが私たちの願いです。そのために、障害のある人や高齢者等にとっても参加しやすい学習機会を通して、すべての人々がともに学び、心の触れ合いが深まっていくことが重要です。

また、生涯学習は、身近なけいこごとから社会の変化に対応するための学習まで幅広いものですが、自分自身で楽しみを見い出せるような学習であることが大切です。更に、自分自身の職業能力の開発・向上に関する学習、住んでいる地域の問題に関する学習など、生きていく上で必要となる専門的な学習も重要です。

更に生涯学習は、個人の生活の向上にとどまることなく、新しいまちづくりや地域社会づくりなどの学習を通じて地域の人々や地域社会の活性化にもつながってきます。

一方、京都府内の各地域は、豊かな自然環境や歴史的遺産に恵まれています。特に農山漁村においては、自然の大切さや地域の文化について学び、余暇を気軽に楽しみ、生きがいを持てるような場所として、その資源を積極的に活用していく必要があります。

北部や中部地域をはじめ各地域では、若者の流出、過疎化、高齢化、地域産業の停滞、都市問題などの問題がみられ、それらの解決が求められており、これらもまた重要な学習課題となっています。

このため私たち一人ひとりが自分の条件に合わせて、気軽に楽しみ、生きがいを感じ、一人でも多くの人たちと身近な地域で学んでいきましょう。また、私たちは、進んで学習を企画し、学ぶことを通して社会のあり方や地域の諸課題、地域産業、地域づくりに積極的に取り組んでいきましょう。特に女性が企画・立案に参画できるような場を増やしていくよう努めましょう。

その上で、京都府内の各地域においては、21世紀の心豊かな人づくりを進める生涯学習の風土をつくりだし、相互の交流を深めながら、優れた自然環境や歴史的遺産の保全、伝統文化の継承・発展に努め、いきいきと学ぶことのできる社会や地域を創造していきましょう。

2 伝統と蓄積を活かす開かれた学びのみやこをつくる

私たちは、日本を代表する京都の豊かな歴史・文化をはじめ、伝統工芸、先端産業、大学等の蓄積を活かして、内外に開かれた生涯学習の中心としての発展を目指します。

京都は、我が国の文化・芸術の中心として、豊かな歴史・文化・芸術の伝統と蓄積を有しており、これらは我が国全体の共通財産ともなっています。こうした観点から見ると、京都には、全国的に見て貴重な生涯学習の資源が満ちあふれており、中でも茶道、華道、舞踊など、伝統ある各種のけいこごとなども大変盛んです。

また、我が国では、これまで科学技術が重視され産業技術の面では世界の最高水準に達し、京都においても優れた先端産業が立地しています。21世紀に向けて、かつてなく心の豊かさが求められるようになり、科学と芸術の視点から、京都の伝統文化や先端的科学技術を活かした芸術や科学の一層の振興が必要となっています。

特に京都は、学問の都として大きな役割を果たしており、海外からも多数の研究者・留学生等が来ています。また、京阪奈丘陵においては、21世紀の我が国や世界の発展に寄与する関西文化学術研究都市の建設が進められており、文化学術研究機能の集積を活用して、多様な学習機会の充実や情報発信など、京都らしい生涯学習を進めていくことが大切です。

一方、京都は、日本人の心のふるさととして、また、世界の人々が日本文化の真髄に触れることができる場所として内外から多くの人々が訪れています。この京都の良さは、だれもが心のやすらぎを覚えるとともに、静かに物事を考え学ぶことのできる風土を有していることです。

このため伝統と蓄積などの条件を活かして、京都ならではの生涯学習の機会や生涯学習の支援のためのシステムを整備するとともに、全国に対する生涯学習の情報発信を促進します。

また、この京都のもつ風土を活かし、日本の京都、世界の京都として、世界との交流を深め、世界的視野で京都や日本を紹介する学習機会を整備するとともに、世界に向けて情報発信できるような学習情報や機会の充実を図ります。

